

## 中国の原子力関係情報

中国核能行業協会（中国原子力産業協会）HP （中文概要仮訳）

2008-6-23 原子力専門家、中国は内陸原子力発電所建設を多いに推進すべき

- 中国工程院院士、中国原産協会専門家委員会主任（委員長）叶奇○（くさかんむりに秦）は、18日、同協会が北京で開催した「中国原子力の持続可能な発展フォーラム」にて、「原子力発電の持続可能な発展のための重要な課題」について講演し、安全と環境保護の視点から、技術的に成熟した内陸原子力発電所の開発を中国は大いに進めるべきだと述べた。
- 中国の原子力発電所は主に沿海部に建設されている。これは、沿海地域の経済発展が早いこと、電力網の容量が大きいことから大規模な原子力発電を受入れられること、石炭産地から遠いこと、水資源不足のため原子力発電所を建設し「北の石炭を南へ運ぶ」「西の電力を東へ送る」ことへの依存状態を変えることができるため。
- しかし、内陸の中西部の経済、電力網の容量が大きく発展し、石炭、水資源に不足する内陸の省では、原子力発電所建設により電力不足を解決することが求められている。
- 今年初め、南方各省で広範囲に長期間発生した降雪災害により、長時間の停電と深刻な被害があった。今後同様の状況を避けるため、電力網の災害抵抗力を高めるほか、緊急時に燃料輸送に頼らない発電所建設が必要で、原子力発電所は重要な選択肢のひとつである。
- 中国の原子力発電所立地計画のなかで相当部分が内陸立地である。うち多くが、地質、水、気象、地震、交通、人口などについてデータを収集し、初期F S、評価を行っているものもある。立地地方政府と住民は、原子力発電所の開発を支持し、内陸での原子力発電所建設を推進するだろう。
- 電力需給の逼迫により、湖北、湖南、江西、安徽、重慶等の内陸では、内陸原子力発電所の第1期サイトになる競争をしている。これまで沿海地域だけが原子力発電を開発してきたが、原子力発電所建設は今後内陸に向かう。
- 同フォーラムのニュースによれば、中国の最初の内陸原子力発電所は、湖北北咸寧で着工し、湖南、湖北、江西の3つの内陸サイトも準備作業のための承認を得た。（中国新聞社より引用）

2008-6-17 中国核工業集团公司は、東方電気集团公司東方タービン徳陽生産基地と 50

億元の原子力発電設備契約に調印

- ・ これは、地震で重大な被害を受けた東方電気の再建、製造再開を支援するとともに、国家設備製造業の発展を支持する行動でもある。

(中国核工業集团公司HPより)

2008-6-17 6月17日、中国原産協会年会 北京で開催、専門家委員会名簿を発表

- ・ 中国原産協会の専門家委員会は、協会会員の推薦する780名以上の専門家の中から、8つの専門グループ、151名の委員が構成された。
- ・ 8つの専門グループは、運転・保守、政策研究、顧問、設計・原子力安全、核燃料、ウラン資源、建設・据付・試運転、設備。
- ・ 委員長は、中国工程院院士、原子力専門家の叶奇○(くさかんむりに秦)。

以上